

令和元年度第5回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和2年3月30日（月） 3：30～4：45

場 所：市民交流施設「ぷらっと」会議室C・D

出席委員：北川裕治会長、金子正美会長代理、岡本収司委員、藤本直樹委員
新田雅子委員、田原久美子委員、岸本佳廣委員、谷川幸雄委員、
大鹿琢委員、腰原久郎委員、小林徹男委員、
栗重理香委員（大森美香氏代理出席）（計12名）

欠席委員：尾形良子委員、岩村ヒロ子委員、赤川和子委員（計3名）

事務局：企画政策部西田次長、政策推進課堂前課長、毛利主査、天明屋主査

その他：株式会社北海道二十一世紀総合研究所 河原岳郎氏

会議概要

1 開会

2 議事

（1）江別市生涯活躍のまち形成事業計画（素案）に対する市民意見募集の結果と市の考え方について

（2）江別市生涯活躍のまち形成事業計画（案）について

事務局から説明

- ・資料1 江別市生涯活躍のまち形成事業計画（素案）に対する市民意見募集の結果と市の考え方について
- ・資料2 江別市生涯活躍のまち形成事業計画（案）

【質疑】

○田原委員

市民からの意見について、区分A「意見を受けて案に反映するもの」の意見がなく、残念である。

この意見に対して、市の考え方は回答するのか。

○事務局

区分A「意見を受けて案に反映するもの」として、直接計画に反映するものはないと説明したが、いただいた意見の多くは、区分B「意見の趣旨が同様のもの」と区分C「反映していないが、今後の参考等とするもの」として整理しており、事業を進めるうえでの市の考えと基本的な方向性は合致しているものと認識している。いただいた貴重な意見は、今後十分留意しつつ事業を進めていきたいと考えている。

市民への回答については、これまでのパブリックコメントの取扱いと同様、市ホームページ、公共施設への配架をもって回答とさせていただきます。

○北川会長

江別市生涯活躍のまち形成事業計画について、案のとおり決定して良いか。

○各委員

了

(3) (仮称) 江別市生涯活躍のまち整備事業事業計画書の変更について

岡本委員から説明

・資料3 新旧対照表

・資料4 (仮称) 江別市生涯活躍のまち整備事業事業計画書

【質疑】

○藤本委員

事業計画書のスケジュールについて、元号の表記が平成の部分があるが、令和を使わない理由はあるのか。

○事務局

今回、一部改正をしたが、形式的な部分は極力そのまま残すことにしたので、平成32年と平成33年の部分は当初策定したものを残している。

○岡本委員

資料4の事業計画書については、江別市と協議をさせていただいた。作成主体は日本介護事業団であり、1ページの「はじめに」に記載している平成31年1月31日は、最初に提出した日付である。

平成31年1月に作ったものであることを前提に、面積や構造など変更のあった箇所や当初検討中であった部分については修正している。スケジュールについても法律に基づく建築確認や開発許可が後日分かるように変えている。また、日付を変更するならば、「はじめに」に記載している平成31年1月31日という日付から変更しなければならないかの議論になる。江別市とはこの事業計画書に基づいて、協定書の締結をしているため、最小限の修正にしている。

○北川会長

事業計画書の修正は、当初の平成31年1月31日の内容を吟味しながら必要な修正を行っている。事務的な考え方だが、この通り進めたいと思う。

他に質問、意見はないか。

○岸本委員

総工費が40億円以上という話が出たが、国の制度を使う場合、どこまで資金が入るのか。

○岡本委員

サービス付き高齢者向け住宅は国土交通省からの補助金を活用する。障がい者就労訓練グループホーム、就労継続支援A型事業所のレストランとパン工房は厚生労働省の社会福祉施設整備の補助金が2分の1入り、北海道からも4分の1入るので、限度額はあるが、国と北海道から合わせて4分の3の補助金を活用することになる。

特別養護老人ホームと介護老人保健施設は、北海道からの補助金を活用し、看護小規模多機能型居宅介護は江別市から補助金を活用する。企業内保育所は内閣府の予算で補助制度を活用することが出来る。以上が整備に係る直接的な補助金である。

さらに、福祉医療機構から低利の融資を受けることが出来る。介護保険の3つの施設、障がい者のグループホーム、就労支援A型事業所、企業内保育所について活用する。内閣府の補助金と福祉医療機構からの融資の他に、市中銀行からの借入部分に対し、特定地域再生支援利子補給金を活用する。公的な支援は以上である。

○岸本委員

パークゴルフ場についてはどうなのか。

○岡本委員

パークゴルフ場は各施設の外構工事の一部として整備が行えるように協議中である。

○田原委員

ふぐの養殖場は、保育園や就労継続支援A型事業所と比較して面積が広い。パブリックコメントにふぐの養殖はやめることを求める意見があったが、札幌で行っているふぐの養殖の利益はどのくらいなのか。

○岡本委員

今回のふぐの養殖場は、既存の施設の倍の規模を想定しており、完成後は札幌の養殖場を止める予定である。また、養殖過程での欠損率が高いので改善する課題はあるが、レストランで提供するためには、この規模が必要だと考えている。

札幌では一般のレストランに出荷はしておらず、運営する施設内やイベントでの提供を行っており、利益のためではなくサービスの一環で行っている。

○新田委員

老健や特別養護老人ホームなどの利用者は、建物の見通しが立った後に募集すると思っていた。しかし、サービス付き高齢者向け住宅は、事前に入居者の希望を聞くコーポラティブ方式で内装などを決定するに当たり、入居者も加わらなければならない。サービス付き高齢者向け住宅の入居者の募集は、スケジ

ジュールに入っていないが、見通しはあるのか。

○岡本委員

昨年、サービス付き高齢者向け住宅について入居を検討している方を対象に、コーポラティブの会を立ち上げており、現在は40名前後の方に入会していただき、面積や料金負担などの意見をうかがい、反映している。会員については随時募集しており、日々新規の方から連絡をいただいて説明をしている状況である。この取組については、昨年9月頃から進めている。

○新田委員

江別市民に対して事業のPRをお願いしているが、今後、市民が中に加わり、その希望を反映させて入居につながるよう意識をして、また、対外的にも見える形で進めていただきたい。

○北川会長

他に質問、意見はないか。

○各委員

なし

(4) 開設準備室の設置について

事務局から説明

・資料5 開設準備室の設置について

【質疑】

○岸本委員

コーディネーターが常駐で1名と他4名という説明だったが、オープン後についても同じ人がコーディネーターとして入るのか。

○事務局

来年度のコーディネーターとして5名の準備をしているが、現状ではオープン後のコーディネーターの人選までは決めていない。

○岸本委員

地域住民とのふれあいなどソフト事業について、「コーディネーターを配置する」と計画書に記載しているが、開設準備室のコーディネーターは分けて考えるべきなのか。

○岡本委員

開設準備室は、江別市の予算をいただいて、事業者が業務委託の範囲以内で行う。コーディネーターの設置については事業者側の提案であり、江別市から一定程度の予算をいただくだけではなく、事業者が人を配置して行なわなければならない。

事業計画書に記載がある内容は、市の委託を受けて行うことよりも一回り

大きい取組として考えている。コーディネーターは地域とのかかわりの中でのキーマンになるため、頻繁に変わることは望ましくない。常駐1名は、再来年度も江別市とのつながりが切れなような人を念頭において、配置する人を調整する。

○谷川委員

コーディネーターはどのような資格を持っている人を募集するのか。

○事務局

コーディネーターは資格が必須ではない。しかし、事業者には、江別市又は拠点地域である大麻周辺をはじめとする、まちづくりに造詣が深い方をお願いすると聞いている。

○谷川委員

文部科学省関連の社会通信教育協会から認定を受ける資格がある。江別市は10年前から生涯学習のコーディネーターの会を作っており、資格を有している方がいる。

○北川会長

社会通信教育協会から認定を受けた方が江別市には沢山いる。しかし、今回は生涯活躍のまちの調整役としてのコーディネーターなので、委託する5名に対して各委員からご指導をいただくと、コーディネーターとしての能力が上がっていくと思う。

○藤本委員

今後のスケジュールに記載されている取組は、誰が主体となって行うのか。様々なワークショップや市民説明会については市が行うと思うが、事業者が行う部分との線引きが難しい。

次に、今後実施するパンフレットの作成やワークショップの運営支援を含めて大学や大学生が協力できる場面が多くあるので、各大学の対外的な窓口で連絡をしていただきたい。また、私は、四大学と江別市、商工会議所が提携した江別未来づくりプラットフォームの委員も兼務しているので、連絡をいただくと適性を持った学生や専門家である教員を紹介するなど、協力できることがあると思う。

○事務局

スケジュールに記載されている取組について、開設準備室の準備は、市と事業者が協力して行い、コーディネーターの配置は事業者が行う。パンフレットの作成は、市と事業者で掲載内容を相談した上で、協力して行う。ワークショップは、市が別の事業者に業務委託をして開催する。10月の市民説明会は市が主催で開催する予定である。

○金子会長代理

藤本委員の話に関係するが、名称募集は江別市が行うのか。

○事務局

名称募集については今後、事業者が行う。

○金子会長代理

江別市のホームページは、この事業のトップページがあるのではなく、ひとつの会議ごとに会議録が出て来るので、検索しても分からない。

○事務局

名称の公募は、つしま医療グループのホームページでPRし、市のホームページでも周知していく。

市のホームページについては、見やすいように修正を行い、年度明けに見られるよう準備を進めている。

○金子会長代理

ホームページで全て分かるように作っていただきたい。また、つしま医療グループとリンクして、様々なSNSでアピールした方が良いと思う。

○岡本委員

今後、この事業について市民や学生に興味を持っていただく必要がある。事業の主体である社会福祉法人日本介護事業団として、江別市の取組と一体となって作らなければならないと思っている。

その最初の取組が名称募集であり、4月3日から募集開始のため、現在は準備中である。

また、ホームページはコンテンツを充実させたいと思っており、SNSについては複数名のコーディネーターがフェイスブックで情報を発信することを考えている。

○事務局

この取組の主体はどこなのか、また、情報発信の仕方についても指摘をいただいている。これまでは計画を作りながら進めているという経過があったが、形成事業計画が策定されたので、令和2年度からは具体的な取組の段階に入っていくこととなる。今後は、この計画に基づき市が事業者に必要な業務の委託や補助を行うことで、市と事業者の役割が明確になっていく。それに伴い、様々な情報の発信がより一層重要になるが、未完成な部分があるので、市としても事業者や当協議会委員の方々と協力し、進めていきたいと考えている。

3 その他

○岡本委員

名称募集について、生涯活躍のまちのイメージが出来たので、4月3日から

5月15日まで募集する。

4月3日の募集開始当日には、江別市と北海道庁記者クラブなどにも情報を提供し、市内各施設にチラシやポスターを配布する。また、江別市と北海道庁の協力を得て、事業者も合わせてホームページでも発信する。同日にはSNSも開設する予定なので、そこでも発信する。さらに、自治会での回覧や5月号の広報えべつにも取組の一部を掲載する。

若い世代にも興味を持っていただきたいので、市内中学校、高校、大学を回っている。中学校と高校はホームルームなどを通じて全生徒に届けられるよう理解をいただいている。大学は、一定量のチラシとポスターを渡し、協力をしていただいている。

いずれにしても、5月下旬には公募から名称が決まる予定なので、各委員の周囲の方への周知も協力していただきたいと思う。

○北川会長

他に質問、意見はないか。

○事務局

本日報告させていただいた市民意見募集（パブリックコメント）の結果と市の考え方については、担当課窓口、市民交流施設など市の各施設に資料を設置するほか、市ホームページにおいても掲載し、公表する。

本日の協議会をもって、今年度の開催は終了とさせていただく。

今年度は形成事業計画の策定について議論いただいたが、来年度は計画に基づく事業の進捗状況の報告や協議を行う予定である。次回は年度明けとなるので、改めて日程調整をさせていただく。

4 閉会